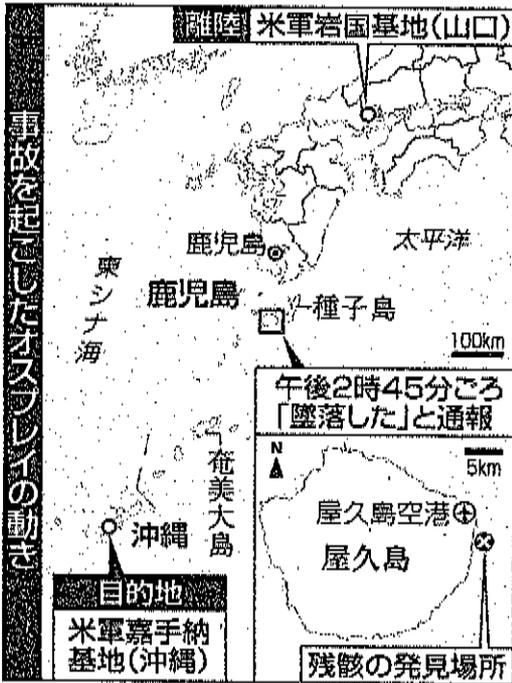


オスプレイ 政府が飛行停止要請 墜落直前に「緊急」連絡

米空軍の輸送機CV22オスプレイの事故で、鹿児島県・屋久島沖で発見され、死亡が確認された男性について、木原総防衛相は30日の参院外交防衛委員会で、

搭乗員と確認されたと明らかにした。日本国内で起きたオスプレイの事故で初の死者。木原氏は安全性が確認されてから飛行するように米側に要請した。一方、沖



縄県内の米軍基地では、30日もオスプレイが飛行しているのを防衛省が確認した。
第10管区海上保安本部(鹿児島)は、6人としていた搭乗員は8人だったと説明。海保や自衛隊は行方不明となっている残る7人の救助、捜索を続けた。機影がレーダーから消えたのは29日午後2時40分ごろで、その約10分前に、CV22のパイロットから鹿児島空港事務所に「緊急着陸のため屋久島空港に着陸したい」と連絡があったことが、国土交通省への取材で

捜索に参加した漁船が回収した、米軍オスプレイの残骸など。とみられる漂流物。30日午後4時22分、鹿児島県屋久島町の安房港で



分かった。その頃、エンジン部分から火が出たとの目撃情報があり、機体はその後制御不能に陥り、墜落したとみられる。原因究明には水深約30メートルの海中に沈んでいるとみられる機体の発見、回収が重要となる。自衛隊は現場海域に護衛

艦や哨戒機を派遣した他、海保は水中音波探知機(ソナー)も投入。その結果、屋久島空港南東端から約1・2キロの沖合に、付近の海底と異なる隆起があり、調べたが岩だった。隆起は他にも複数あったといい、機体の可能性もあるとみて、12月1日以降、重点的に捜索する。

は「不時着水をした」としていた。
陸上自衛隊は30日、事故状況が明らかになるまで、当面の間保有するV22オスプレイの飛行見合わせを決めた。松野博一官房長官は記者会見で、V22の佐賀配備計画は変更しない考えを示した。

漁師らが折れた黒いプロペラや、灰色の機体の壁面のような部品を海上から回収した。海保は日米地位協定に基づき、搭乗員の遺体を米軍関係者に引き渡した。

CV22は米軍横田基地(東京都)配備。岩国基地(山口県)から嘉手納基地(沖縄県)に向かう予定だったが、29日午後、レーダーから機影が消失した。
米空軍特殊作戦司令部は共同通信の取材に対し、CV22は嘉手納基地拠点の第353特殊作戦航空団所属と説明した。